

のぞいてみよう！**せんだいの歴史**

暮らし編

# 姫君の晴れの日を飾った調度

仙台市博物館 学芸企画室 小田嶋 なつみ

第8回

## 華やかな姫君の婚禮調度

江戸時代、大名家の姫君の婚礼は、一生のうちでも重要で華やかな儀式でした。家と家とを結びつける役割をもっていた婚礼では、家格を示すため、ゼいたくな蒔絵の手回り道具類が数多く用意されました。家紋をあしらひ、デザインが統一されたこれらの品々は「婚禮調度」と呼ばれています。今回は、館蔵資料の中から、伊達家ゆかりの婚禮調度を紹介します。



写真1 村梨地葵紋蒔絵調度 江戸時代中期～後期 仙台市博物館蔵(聖和学園寄贈)

写真2は化粧をする際、鏡を掛ける鏡台です。上部が失われていますが、本来は鏡掛けが付き、円鏡を掛けて使いました。二段の引き出しの中には化粧に必要な小道具類を納めることができます。この鏡台には、葵紋のほか、水辺に咲く菊の意匠が優雅に施されています。一群の中でも、特に手の込んだ蒔絵の品です。この鏡台のほか、鏡巢(鏡入れ)および剃刀箱にある菊の意匠が伊達家から寄贈された当館所蔵の別の利根姫調度とよく似ています。

### 鏡台

写真1は、仙台藩6代藩主・伊達宗村に嫁いだ徳川吉宗の養女・利根姫(雲松院、一七一一〜一七四五)の婚禮調度と伝わる村梨地葵紋蒔絵調度です。さまざまな化粧道具からなる漆工芸品で、斑状に金粉を蒔いた村梨地に、徳川家の家紋である葵紋を散らした華やかなつくりとなっています。一部を詳しくみていきましょう。



写真2 鏡台(村梨地葵紋蒔絵調度のうち)



写真3 左より耳盥・台輪(村梨地葵紋蒔絵調度のうち)

### 耳盥・台輪

写真3は、耳盥と台輪と呼ばれるもので、お歯黒をつけるときに使います。左が耳盥で、水を張る盥です。両脇に把手が付いており、右の台輪の上に載せて使用します。

この耳盥・台輪の蒔絵は、村梨地に葵紋を散らしている点は、鏡台と同じですが、菊の意匠はありません。また他の調度も、意匠や葵紋に違いがみられるものがあります。そのため、この調度群には、別の時期に制作されたものが複数混在している可能性があると考えられます。

とはいえ、江戸時代の姫君の調度がかだけ多く伝わっていることは大変貴重なことです。残された調度の数々は、晴れの日にふさわしい豪華さを今に伝えています。

## 仙台市史 全32巻

原始から平成元年までの仙台の歴史をわかりやすく紹介!

「通史編」のほか、古代から現代までの歴史資料で構成される「資料編」、特定のテーマを詳しく掘り下げた「特別編」、「年表・索引」があります。

発売中! ピックアップ紹介



### 特別編3 美術工芸

B5判/オールカラー/590ページ 6,285円(税込)

古代から現代に至る仙台の美術・工芸について、豊富な図版とともに紹介します。上記で取り上げた調度のほかにも、伊達家由来の工芸資料を数多く収録しています。



既刊紹介や購入方法は博物館ホームページでご案内しています。

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM

▶博物館ホームページ ▶博物館ツイッター @sendai\_shihaku

仙台市博物館

検索

▶お問い合わせ

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) TEL:022-225-3074 8:30-17:15 ※土・日・祝日を除く

※当館は現在、大規模改修工事のため休館しています。令和6年4月に再開予定です。